

3. 大阪圏の住宅地

※（ ）は前年変動率

京 都 府	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都市では、2.0%上昇(1.3%上昇)。下落が続く山科区を除く全ての区で上昇が続いており、ほとんどの区で上昇幅が昨年より拡大した。 ・ 市内中心部の上京区、中京区、下京区、東山区などでは、住宅需要のほか、宿泊施設需要も競合し、高い上昇率を示している。 ○ 京都市の周辺では、長岡京市、向日市、宇治市、亀岡市で上昇が続いており、久御山町が上昇に転じた。 ○ 北部地域及び南部地域では、下落が続いている市町が見られる。 	大 阪 府	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東部地域及び南部地域では、下落が続いている市町村が多く見られる。 ・ 泉佐野市では、関西国際空港の関係者による需要が堅調で、上昇が続いている。
大 阪 府	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪市では、0.8%上昇(0.6%上昇)。下落が続く大正区及び横ばいの旭区を除く全ての区で上昇しており、多くの区で上昇幅が昨年より拡大した。 ・ 市内中心部でのマンション素地需要が堅調であり、特に西区、浪速区及び中央区では高い上昇率を示している。 ・ 西淀川区、此花区、住之江区及び平野区で、下落から上昇に転じた。 ○ 堺市では、1.5%上昇(1.2%上昇)。下落が続く南区及び美原区を除く全ての区で上昇しており、多くの区で上昇幅が昨年より拡大した。 ・ 北区では、地下鉄御堂筋線の始発駅である中百舌鳥駅周辺の需要が堅調であり、上昇幅の拡大が目立っている。 ○ 北部地域では、北大阪急行線延伸が予定される箕面市のほか、吹田市、豊中市、茨木市などで上昇が続いており、高槻市及び摂津市で横ばいとなった。 	兵 庫 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 神戸市では、0.4%上昇(0.3%上昇)。東灘区、灘区、中央区、兵庫区及び長田区で上昇が続いており、垂水区は横ばいとなった。 ○ 阪神間の地域では、大阪・神戸への通勤・通学を目的とする需要が堅調で、芦屋市をはじめ、上昇が続いている市が見られる。 ○ 北部地域では、下落が続いている市町が見られる。
		奈 良 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奈良市では、0.5%上昇(0.4%上昇)。大阪や京都への通勤が可能な鉄道沿線地域での需要が堅調で、上昇が続いている。 ○ 大阪への通勤圏である生駒市でも上昇が続いている。 ○ その他の多くの市町村では、下落が続いている。

市区町村別の状況（大阪圏・住宅地）

